

# 平成 17(2005)年 1月～6月 長期漁況海況予報 平成 16(2004)年 12月 発行



大分県海洋水産研究センター 879-2602 大分県南海部郡上浦町大字津井浦

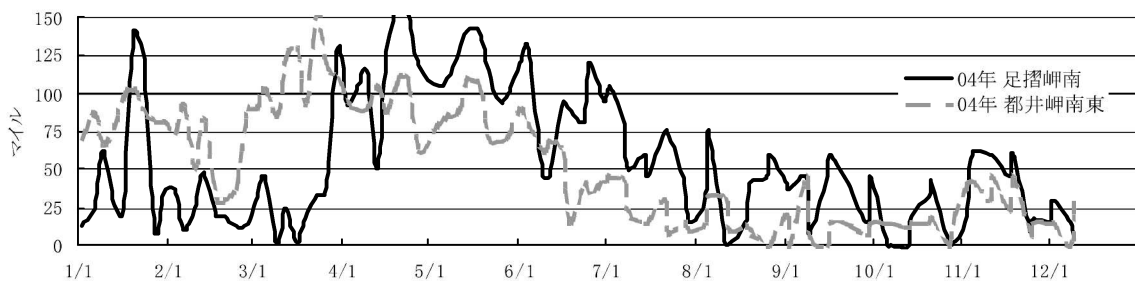
Phone 0972-32-2155 Fax. 0972-32-2156 <http://www.mfs.pref.oita.jp>

## 海況経過<平成 16年後期>

### ■黒潮

期間中、九州南東沖での黒潮小蛇行の形成はなく、都井岬沖～足摺岬沖では概ね接岸傾向となりました。なお、潮岬以東の状況として、黒潮は7月後半にN型流路からA型流路(大蛇行)への変化が起こり、8月に安定したA型流路となり、継続中です。

黒潮北縁と都井岬との距離の状況は、10月までは接岸傾向、11月上旬～中旬は離接岸を繰り返し、11月下旬以降は接岸しました。足摺岬との距離の状況は、期間を通して離接岸を繰り返しました(図1)。



足摺岬：接岸 0～25 マイル やや離岸 25～45 マイル 都井岬：接岸 0～30 マイル やや離岸 30～50 マイル

図1 足摺岬南及び都井岬南東方向の黒潮北縁までの距離(南西東海沿岸海況速報による)

### ■水温

豊後水道の水温(0m、10m、20m、30m、50m及び75m層)は、7月に豊後水道北部が「きわめて高め」傾向、中部が「高め」傾向、南部が「やや高め」傾向となった他は、期間を通して概ね「平年並」～「やや高め」傾向となりました(表1)。

伊予灘の水温(0m、10m、20m、30m及び50m層)は、8月に底層で強い高め基調となった他は、期間を通して概ね「やや高め」傾向となりました(表2)。

別府湾の水温(0m、10m、20m及び30m層)は、期間を通して概ね「やや高め」～「高め」傾向となりました(表2)。

### ■塩分

豊後水道の塩分は、7月～9月は「平年並」～「やや高め」傾向、11月・12月は「やや低め」～「低め」傾向となりました。

伊予灘と別府湾の塩分は、8月は「やや高め」傾向、9月は「平年並」傾向、10月～12月は「やや低め」～「低め」傾向となりました。

表1 水温の平年偏差評価（豊後水道2004年）

|      | 7月  | 8月  | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|------|-----|-----|----|-----|-----|-----|
| (北部) | 0m  | +++ | +  | +-  | +-  | -+  |
|      | 10m | +++ | +  | +-  | 欠   | +-  |
|      | 20m | +++ | +  | +-  | +-  | +-  |
|      | 30m | +++ | +  | +-  | +-  | +-  |
|      | 50m | +++ | +  | +-  | 測   | +   |
|      | 75m | ++  | +  | +   | +-  | +-  |
| (中部) | 0m  | +   | +- | +-  | -+  | -+  |
|      | 10m | ++  | -+ | +-  | 欠   | -+  |
|      | 20m | ++  | +- | +-  | -+  | -+  |
|      | 30m | ++  | +- | +-  | -+  | -+  |
|      | 50m | ++  | +- | +-  | 測   | +-  |
|      | 75m | +-  | +  | +-  | +-  | -+  |
| (南部) | 0m  | ++  | +- | +-  | -   | -+  |
|      | 10m | +   | +- | +-  | 欠   | -+  |
|      | 20m | +   | +- | +   | -+  | -+  |
|      | 30m | +   | +- | +   | -+  | -+  |
|      | 50m | +   | +- | +   | 測   | +-  |
|      | 75m | ++  | +  | ++  | +-  | -   |

表2 水温の平年偏差評価（伊予灘・別府湾 2004年）

|       | 7月  | 8月 | 9月  | 10月 | 11月 | 12月 |
|-------|-----|----|-----|-----|-----|-----|
| (伊予灘) | 0m  |    | -+  | -+  | +   | +-  |
|       | 10m | 欠  | +-  | +-  | +   | +   |
|       | 20m |    | +   | +   | +   | +   |
|       | 30m | 測  | ++  | +   | +   | +   |
|       | 50m |    | +++ | +   | +   | +-  |
| (別府湾) | 0m  |    | +-  | +-  | +   | +   |
|       | 10m | 欠  | ++  | +   | +   | ++  |
|       | 20m | 測  | ++  | +   | ++  | +   |
|       | 30m |    | ++  | +-  | ++  | +   |

注)+++：きわめて高め ++：高め +：やや高め +-：高めの平年並  
 -+：低めの平年並 -：やや低め --：低め ---：きわめて低め

## 海況の見通し <平成17年前期>

### ■黒潮

2月前半に九州南東沖で小蛇行が形成され、3月～4月に四国沖を東進するでしょう。九州南東沖では4月以降に接岸傾向となるでしょう。また、黒潮の小蛇行の東進に伴って、沿岸域へ一時的に暖水が波及することがあるでしょう。

### ■水温

「平年並」～「高め」でしょう。

### ■予測の根拠

中央水産研究所及び関係府県：平成16年度第2回太平洋イワシ・アジ・サバ等長期漁海況予報会議資料(2004)  
 福岡管区气象台：九州北部地方3か月予報(2004)、九州北部地方寒候期予報(2004)

## 資源状況と漁況経過<平成16年後期>

### ■マイワシ

#### ■ 昨年までの経過

大分県漁協鶴見、米水津及び蒲江支店のまき網(特記ことわりのない限り、まき網についての数値は、この3支店に関するもの)によるマイワシの漁獲量は、1986年以降の1990年までの間は、年間30,000トン前後あり、その大半は3月から7月に漁獲される体長15cm以上の「中羽」以上でした。1991年以降、「中羽」以上は減少傾向となり、一方、7月から9月に主に漁獲される体長10cm前後の「小羽」も、1993年に、一旦、増加しましたが、その後は低調に推移しました。全銘柄の漁獲量は1998年まで8年連続で減少し、1999年は前年に比べ僅かながら増加しましたが、2000年は再び減少しました。そして、2001年は1月下旬から2月中旬にかけてまとまった漁獲があり、約1,750トンと5年ぶりに1,000トンの水準を超えました。しかしながら、2002年は約1トンと過去最低値を記録し、2003年も約90トンと大低減しました(図2)。

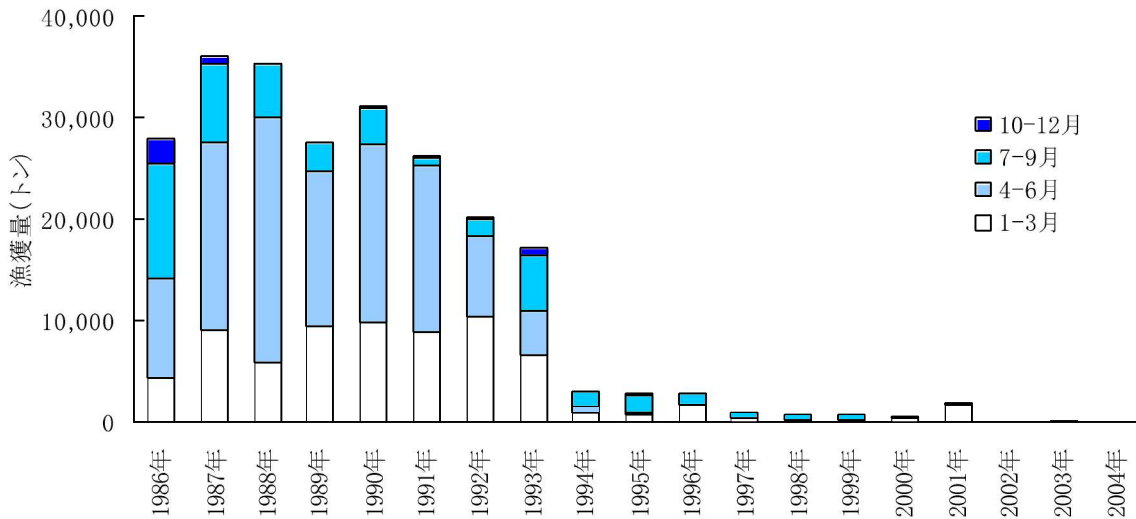


図2 マイワシのまき網漁獲量 (鶴見・米水津・蒲江支店)

#### ■ 本年の経過

2004年後半の月別漁獲量は、各月0~17トン、平年比0~8%(以下、まき網の平年値を1986~2003年の平均漁獲量とする)と著しい不漁が継続しました。このうち、10月は17トン、平年比8%となりましたが、他の月はほとんど漁獲がありませんでした。

### ■カタクチイワシ(成魚)

#### ■ 昨年までの経過

まき網によるカタクチイワシの漁獲量は、これまで一年毎に増加と減少を繰り返しており、漁獲の多い年(偶数年)で2,000~3,000トン程度、漁獲の少ない年(奇数年)で1,000トン前後の漁獲となっていました。しかしながら、1999年には1月中旬から7月中旬にかけて豊漁が続き、過去最高の漁獲となりました。平年の漁期は6月から9月までが中心

であり、1999年は漁獲量及び漁期とも特異的な年となりました。そして、2000年は約2,100トン、2001年は約2,800トンと比較的高水準となりましたが、2002年は約1,500トン、2003年は約1,400トンと2年連続して減少しました(図3)。

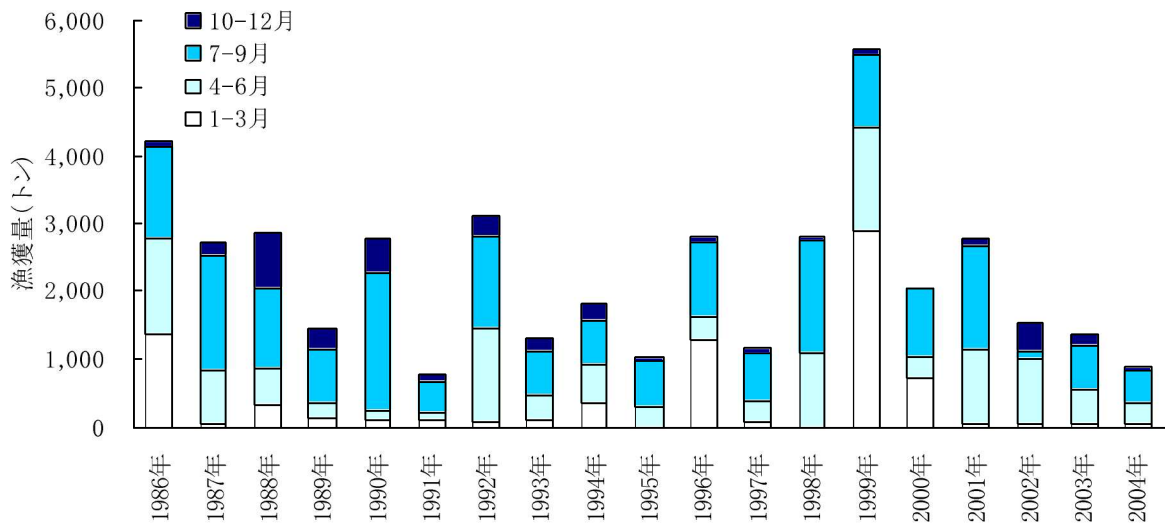


図3 カタクチイワシのまき網漁獲量 (鶴見・米水津・蒲江支店)

■ 本年の経過

2004年後半の月別漁獲量は、各月16～201トン、平年比21～84%となりました。このうち、7～9月は497トン、平年比48%、10月は25トン、平年比21%、11月は16トン、平年比24%と低調でした。銘柄別には大サイズの漁獲はほとんどなく、小サイズ(じゃみ等) 主体となりました。

■カタクチイワシ(シラス)

■ 昨年までの経過

佐伯湾(佐伯・鶴見)の船曳網によるシラスの漁獲量は、1992年に約530トンの最高値を記録した後は、減少傾向となり、1995年には200トンを割り込みましたが、その後は、1993年以前の水準には及ばないものの増加傾向を示しました。しかしながら、2001年は約160トンと過去最低値を記録し、2002年も約210トンの低水準となりました。そして、2003年は高水準に転じ、約330トンと増加しました。

別府湾(杵築・日出)では、1990年以降1,200～2,200トンの範囲で変動しましたが、1998年の漁獲量は、1990年以降初めて1,000トンを割り、約750トンと過去最低値を記録しました。1999年以降は再び1,000トンを超える水準となりましたが、減少傾向を示し、2002年は約870トンと再び1,000トンを割り込みました。そして、2003年は約1,120トンと比較的高水準に戻りました。

白杵・津久見湾では、1991年以降0～106トンの範囲で大きく変動しており、2003年は0.3トンで、平年比1%(以下、船曳網の平年値を1991～2003年の平均漁獲量とする)となりました。

《 推計方法:別府湾の漁獲量=製品(ちりめん)重量×2.514、豊後水道の漁獲量=製品(ちりめん)重量×2.380 》

■ 本年の経過

2004年後半の月別漁獲量は、佐伯湾では7～9月は51トン、平年比52%、10月は46トン、平年比87%、11月は16トン、平年比51%と低調でした。

別府湾では7～9月は383トン、平年比59%、10月は187トン、平年比181%、11月は21トン、平年比18%となりました。

臼杵・津久見湾では期間中ほとんど漁獲がありませんでした。

■ウルメイワシ

■昨年までの経過

まき網によるウルメイワシの漁獲量は、1986年以降100～300トン程度でしたが、1992年以降は増加傾向を示し、1996年には約2,300トンまで達しました。しかしながら、1997年以降は減少傾向に転じ、2002年は約35トンと過去最低値を記録し、2003年も約320トンと低迷しました(図4)。漁獲は夏期の6～8月が中心でしたが、近年は冬期の1～3月にもまとまった漁獲がみられました。

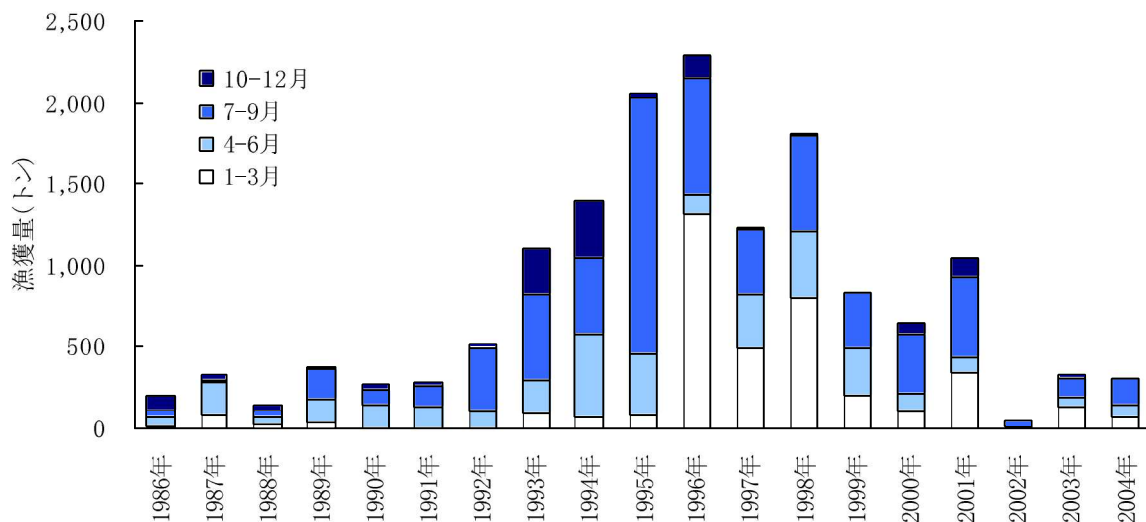


図4 ウルメイワシのまき網漁獲量(鶴見・米水津・蒲江支店)

■ 本年の経過

2004年後半の月別漁獲量は、各月1～99トン、平年比3～62%となりました。このうち、7～9月は161トン、平年比45%、10月は1トン、平年比3%、11月は3トン、平年比19%と低調でした。

■マアジ

■ 昨年までの経過

まき網によるマアジの漁獲量は、1986年以降減少傾向を示し、1991年に1,000トンを割り込みましたが、1992年以降

は増加傾向に転じており、1998年には約7,500トンの漁獲量で、過去最高値を記録しました。しかしながら、1999年以降は2,000～4,000トン程度の水準に下がり、2001年は年前半の不漁により約2,270トン、2002年は約3,800トン、2003年は約1,990トンとなりました(図5)。

また、佐賀関支店の釣りを中心とするマアジの漁獲量は、1988年以降増加傾向が継続し、1999年には248トンに達し、過去最高値を記録しました。しかしながら、2000年は一転して170トン、平年比82%(以下、佐賀関支店の平年値を1988～2003年の平均漁獲量とする)と落ち込みました。そして、2001年は196トン、2002年は210トン、2003年は215トン(平年比104%)と再び増加傾向となりました。

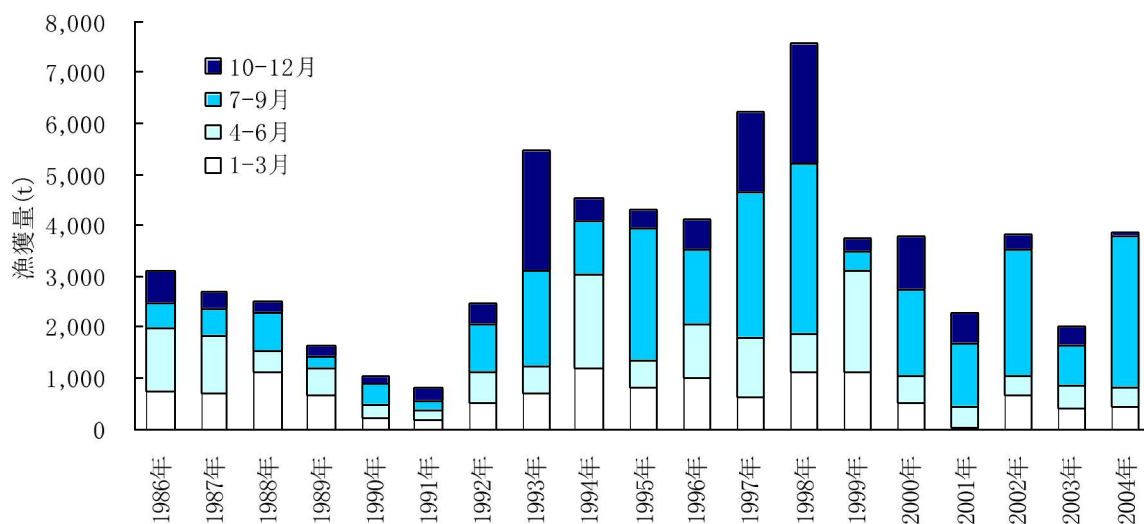


図5 マアジのまき網漁獲量(鶴見・米水津・蒲江支店)

■ 本年の経過

まき網の2004年後半の月別漁獲量は、各月19～1,724トン、平年比5～491%となりました。このうち、7～9月は2,974トン、平年比229%と好調で、7月・9月は豊漁となり、特に7月は1,724トン、平年比491%と、当該月の漁獲としては過去最高値を記録しました。10月以降は不漁に転じ、10月は19トン、平年比5%、11月は37トン、平年比21%と平年を大きく下回りました。

佐賀関支店の月別漁獲量は、7～9月が90トン、平年比158%と好調で、10月は17トン、平年比94%、11月は17トン、平年比123%となりました。

■ マサバ・ゴマサバ

■ 昨年までの経過

まき網による「さば類(マサバ・ゴマサバ)」の漁獲量は、1993年以降増加傾向を示し、1996年及び1997年には、それぞれ約14,000トンと約12,000トンをあげて豊漁となりましたが、1998年は一転して不漁となり、1986年以降初めて1,000トンを割り込みました。そして、1999年、2000年と低水準ながら増加傾向を示しましたが、2001年からは大低迷



し、2002年は約180トンと過去最低値を記録しました。しかしながら、2003年は高水準に転じ、約5,500トンと増加しました(図6)。「さば類」のうち、1994年以降はゴマサバが漁獲主体で、マサバの漁獲はほとんどない状況でしたが、大低迷した2001年及び2002年にはマサバの占める割合が比較的高い傾向がみられました。

また、佐賀関支店の釣りを中心とするマサバの漁獲量は、豊漁であった1992年と1993年を除き、ほぼ100～200トンの範囲で変動しました。1998年以降は120トン前後で横ばい傾向となり、2002年は148トン(平年比90%)と平年を下回りましたが、2003年は高水準に転じ、261トンと増加しました。また、2～3年の短い周期で増減を繰り返す変動傾向もみられました。

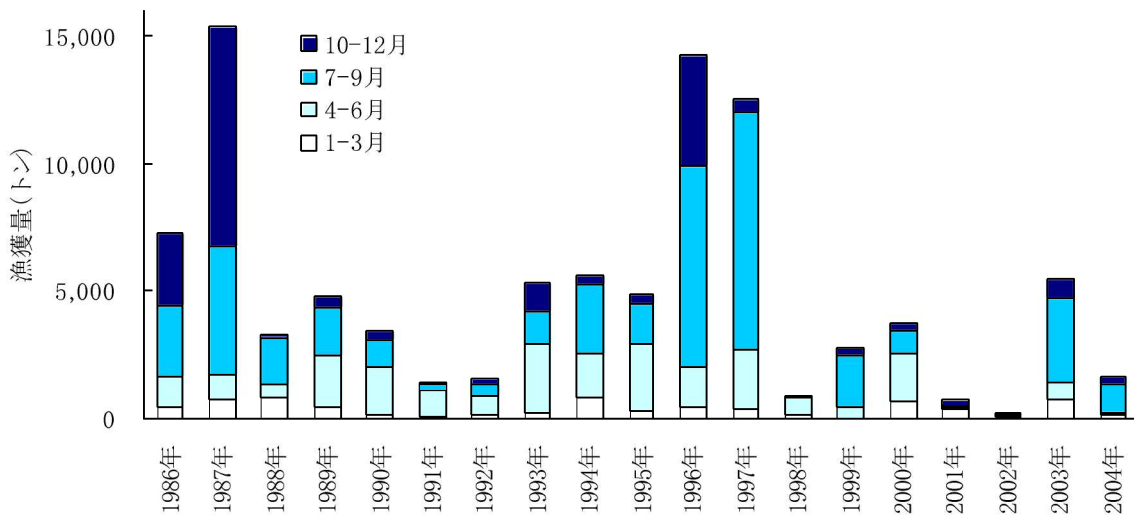


図6 マサバ・ゴマサバのまき網漁獲量(鶴見・米水津・蒲江支店)

■ 本年の経過

まき網のゴマサバを主体とする2004年後半の月別漁獲量は、各月78～721トン、平年比22～62%となりました。このうち、7～9月は1,153トン、平年比49%、10月は224トン、平年比34%、11月は78トン、平年比23%と低調でした。

佐賀関支店のマサバの月別漁獲量は、7～9月が44トン、平年比137%と比較的好調で、10月は7トン、平年比114%、11月は9トン、平年比92%となりました。

## 漁況の見通し <平成 17 年前期>



### ■マイワシ

#### 【太平洋系(北薩一熊野灘)の見通し】

来遊量は北薩から日向灘では混獲程度の低水準でしょう。豊後水道南部から熊野灘では低水準の前年を上回るでしょう。

[説明] 資源状態として、2001 年から 2004 年の加入量水準が連続的に低調であったことから、漁獲主体となる 2003 年級群、2004 年級群の水準は極めて低く、また、2005 年級群を生み出す親魚量も少ないため、加入量水準が劇的に回復するとは考えられません。

#### 【大分県の見通し】

漁獲量は比較的大きな周期で増加あるいは減少すると考えられ、来遊水準は直前の漁獲水準と相関が高い傾向にあります。漁況経過からみると、来遊水準は極めて低いままであり、依然として低水準でしょう。但し、過去最低値を記録した前年を上回るでしょう。



### ■カタクチイワシ

#### 【太平洋系(北薩一紀伊水道外域西部の成魚)の見通し】

来遊量は前年並みか前年を下回るでしょう。

[説明] 資源水準は高位で、横ばい傾向にあります。2003 年級群は、これまでの推定結果から比較的高い水準と考えられますが、2004 年級群は、各地でシラス漁が不漁であったこと等から、その水準は低い可能性があります。

#### 【大分県の見通し】

成魚については、漁況経過からみると、小サイズ(ジャミ等)の漁獲は5~9月に好調となりましたが、全体としては、平年を下回る漁獲が継続しており、来遊水準は低いと考えられ、不漁の前年並みで、平年を下回るでしょう。

また、シラスについては、漁況経過からみると、佐伯湾、別府湾ともに平年を下回る月が多く、来遊水準は低いと考えられ、不漁の前年並みで、平年を下回るでしょう。



### ■ウルメイワシ

#### 【太平洋系(北薩一熊野灘)の見通し】

来遊量は北薩から土佐湾では前年並みか前年を上回るでしょう。紀伊水道外域西部では前年並みの低水準でしょう。紀伊水道外域東部から熊野灘では前年を下回るでしょう。



[説明]資源量の指標となる産卵量は2001年、2002年と減少しましたが、2003年は増加に転じました。資源水準は中位で、横ばい傾向にあると考えられます。

#### 【大分県の見通し】

漁況経過からみると、来遊水準は一昨年著しい低水準からは脱したもの、依然として低い状態にあると考えられます。また、当該時期の漁獲量は前年3～11月漁獲量と比較的高い相関( $r=0.83$ )があり、これから推定すると約164トン(前年比116%、平年比42%)の漁獲となります。従って、総合的に判断すると、前年をやや上回り、平年を下回るでしょう。

### ■マアジ

#### 【太平洋系(北薩-日向灘・豊後水道)の見通し】

来遊量は1歳魚は北薩から薩南では前年・平年並みでしょう。日向灘から豊後水道では前年並みか前年を上回るでしょう。



[説明]資源水準は1986年に顕著に増加し始め、1993年から高水準となり、1997年から2000年にかけてやや低下したものの、2001年には加入量が多かったために再び高くなりました。2002年、2003年と加入量が減少し、資源水準も減少傾向にありますが、2004年の加入量はやや多い可能性があります。

#### 【大分県の見通し】

漁況経過からみると、来遊水準は小サイズを中心に7月・9月に高い状態となりましたが、10月以降は減少傾向にあると考えられます。また、当該時期の漁獲量は前年7～12月の小サイズ漁獲量と比較的高い相関( $r=0.77$ )があり、これから推定すると約1,768トン(前年比216%、平年比122%)の漁獲となります。従って、総合的に判断すると、不漁の前年を上回り、平年並みでしょう。

### ■マサバ・ゴマサバ

#### 【太平洋系(薩南-日向灘・豊後水道)の見通し】

来遊量はゴマサバ1歳魚は少なかった前年を上回るでしょう。2歳以上も来遊するが少なくでしょう。マサバは低水準でしょう。さば類全体としては、前年並みでしょう。



[説明]ゴマサバの資源状態として、2000年級群、2001年級群及び2002年級群の加入量は比較的安定していましたが、2003年級群の加入量はそれより大幅に減少しました。2004年級群の加入量は高い水準と推定されます。また、マサバの資源水準は低位で、減少傾向にあると考えられます。

#### 【大分県の見通し】

漁況経過からみると、平年を下回る漁獲が継続しており、来遊水準は低く、減少傾向にあると考えられ、不漁の前年を上回り、平年を下回るでしょう(ゴマサバ主体)。

## その他

### ■予測の根拠

中央水産研究所及び関係府県：平成16年度第2回太平洋イワシ・アジ・サバ等長期漁海況予報会議資料(2004)

### ■問い合わせ先

この予報に関する問い合わせ先は、大分県海洋水産研究センター 企画・海洋資源利用部まで  
(〒879-2602 大分県南海部郡上浦町大字津井浦 電話0972-32-2155 ファクシミリ0972-32-2156 e-mail:  
a16411@pref.oita.lg.jp)